

白鳥新道2期区間の整備

【共通・継続】

■ 現状と課題

室蘭市を中核とする西胆振地域は、室蘭港の流通機能や高い工業技術の集積、噴火湾沿岸の農漁業、北海道洞爺湖サミット開催地の支笏洞爺国立公園や登別温泉等の全国的に有名な観光資源など多様な産業の集積地域であり、北海道経済の発展拠点として重要な役割を担っている。白鳥新道1期区間の白鳥大橋は開通以来、広域幹線道路・本市環状道路網として渋滞解消など有効活用されておりますが、大橋の祝津側本線は地上30メートルの高さで行き止まりであり、その機能は十分に発揮されていない状況である。

当地域は30年周期で大噴火をくり返す有珠山をかかえ、噴火時避難及び復興への対応や災害医療の充実が求められ、広域救急医療体制が集積する室蘭市中央地区にアクセスする白鳥新道2期区間は「命の道路」の役割が期待されている。また、西いぶり定住自立圏中心市である室蘭市の中央地区は官公庁が集中した広域行政拠点機能や東日本大震災でも出動した防災フロートが保留する室蘭港の防災機能などが集積し、防災・減災対策において白鳥新道が果たす役割は大変重要なものとなっており、白鳥新道2期区間の早期事業化は、西胆振地域全体の願いである。



■ 要望内容

- 白鳥新道2期区間の早期事業化

■ 事業効果

- 西胆振・渡島・後志圏からの広域救急搬送の速達性の確保により地域住民の命が守られる
- 災害拠点病院へのアクセスや室蘭港の防災基地機能など防災体制強化及び防災拠点都市形成
- 北海道、東北・北関東・甲信越・北陸15県のPCB廃棄物処理事業やシップリサイクルなどの地域プロジェクト展開の推進
- 本市官公庁・むろらん広域センタービルなどの広域拠点施設へのアクセス向上による定住自立圏中心市機能強化
- 臨海企業製造品や農水産物など物流機能の利便性向上
- 主要観光地へのアクセス利便の向上、広域連携による観光振興
- 室蘭市蘭西地区のまちなか再生及びびみなとまちづくりと連携した個性ある地域形成